

経済建設常任委員会

平成27年10月28日～30日、徳島県、愛媛県、広島県の4カ所を行政視察しました。

課題を売りに変えて

徳島県上勝町

葉っぱでビジネス…

上勝町は、40年前寒波で特産ミカンの木が全滅したため、新たな農産物に取り組んだ。農協の指導員のひらめきで、高齢者・女性でも扱える「葉っぱ」の生産・販売を始めた。年間2億6千万円売り上げ、年1000万円以上も売るおばあちゃんもいる。

生産から販売までのシステムを研修すると同時に、やる気と生きがい健康対策につながっていると痛感した。

インターンシップ事業…

平成22年にスタートした事業で、持続可能な町づくり・地域資源活用の経済活動(起業)などに取り組み、インターン者の募集から就農・起業・就職までのシステムを確立した。この5年間で548人が応募し、34人が移住し若者定住につながっている。

内子ツーリズム

まちなみ保存

愛媛県内子町

内子町では特産のブドウ園からほかのフルーツも栽培し「フルーツパーク」構想を実現した。

観光客に観てもらおうと、古い特色あるまちなみ保存を実現した。内子座も解体の危機があったが、町内固有の歴史文化を守ろうとする住民熱意によって保存した。

大正・昭和時代のまちなみが修理復元され観光客増加につながっている。



保存された内子座

大学生からみた大山町

愛媛大学法文学部

観光まちづくりコース

大山エコツーリズムを訪れているこの学部学生ゼミを視察し、「若者からみた観光地」鳥取県大山をどう思うか、何を求めるかの意見を聞いた。

「スキー・ボード以外に古民家カフェや居酒屋など、夜の散策も楽しむ施設の設置」

「店・宿で大山信仰の歴史を感じたい」

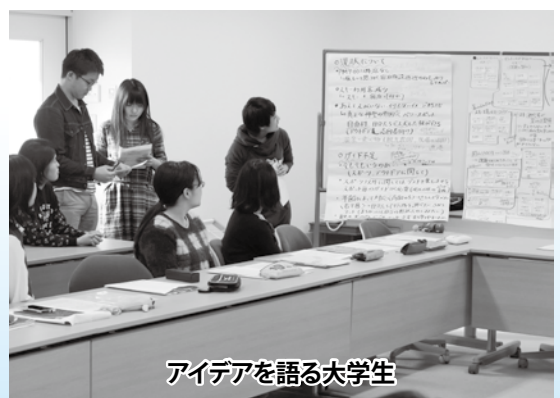
「空き店舗で産地直売・民芸品を販売してはどうか」

「参道はレトロ口でおしゃれ、隠れたスポットとして宣伝する」などのアイデアが聞かれた。大山の四季を楽しめる新しい発想での取り組みの必要性を感じた。

6次産業ネットワークの取り組み

広島県世羅町

面積、人口ともに本町と変わらない世羅町。梨・ブドウなど6品目の県内シェアは1位である。平成10年に設立した6次産業推進協議会は、平成18年に夢高原市場を開設した。地元73団体がネットワークをフルに活用し、販路拡大に取り組み、現在は補助金なしで自立運営していることに驚いた。



アイデアを語る大学生